研究区分	教員特別研究推進　地域振興

研　究 テーマ	ポストコロナを見据えた静岡県観光戦略の調査研究				
研究組織	代　表　者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保　あかね
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	八木　健祥
		所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	内海　佐和子
		所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	アムナーカウクル アムアン
		所属・職名	経営情報学部・客員教授	氏名	北上　真一
	発　表　者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保　あかね

講演題目

観光客から見た日本旅館の魅力―旅館への宿泊経験から―

研究の目的、成果及び今後の展望

■研究の背景と目的

COVID-19 の感染拡大により、静岡県の観光関連産業（宿泊業、レジャー業、飲食業、交通運輸業、小売業＜土産物品店等＞、卸売業＜宿泊施設納入業者等＞）においても、その影響は深刻なものであった。一方で政府が実施する各種旅行支援事業などによって宿泊需要が期間限定的に急増するなか、休業期間中に削減した人員で対応せざるを得ないなど、宿泊・飲食を含めた観光事業経営は混乱が続いている。令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が「5 類感染症」に移行し、その社会的影響が収束したとしても観光事業経営環境が安定するのには、時間が必要と考えられる。

静岡県は伊豆地域を中心に首都圏等からの観光需要によって長年観光が支えられてきたが、今後この宿泊需要を呼び戻すためには、COVID-19 によって変化した消費者(観光客)の旅行ニーズを改めて調査し、それを踏まえた今後の観光戦略を検討・策定することが求められる。本調査は、宿泊施設、特に伊豆に集積する旅館に対する消費者イメージを明らかにすることを目的とする。

■調査の概要

本調査は、2023 年 12 月 1～6 日、株式会社クロス・マーケティングの web 調査ツール QiQUMO を利用して実施した。調査対象は、過去に旅館に宿泊経験を持つ日本在住の 20 代から 60 代各世代の男女各 50 名、合計 600 名である。

調査項目は、旅館の魅力に関して、「食事・風呂・客室・施設・人」の 5 つの場面に対して、「量的・質的・季節感・自然との調和・歴史」という５つの側面に対するイメージを、魅力の度合いとして回答する形式で実施した。

■調査の結果と考察

調査の結果、国内旅行では「いつも旅館に泊まる・旅館に泊まることが多い」と回答したのは、20 代・30 代がそれぞれ 36.1％・31,8％と、40 代・50 代の 24.0％・19.7％よりも比率が高いことが明らかになった。さらに、各場面の各側面に対する魅力度も 30 代以下の若年層が相対的に高いポイントを算出するなど、一般的に高齢者向けと考えられている旅館に対する若年層の需要が高いことが明らかになった。本調査の結果をさらに詳細に分析することにより、伊豆半島における旅館の経営に対して、マーケティング・人材育成などの多方面から活用する具体案の策定が期待される。